

ハイチ大地震

「救援 出口なく」

AMDA 代表ら帰国 当面2拠点で活動

ハイチ大地震の被災



地で緊急医療活動や情報収集を行った国際医療ボランティアAMDA（本部・岡山市）の菅波茂代表（63）ら医師2人が28日、岡山市内で帰国会見し、「政府機能がまひし、治安が悪化する中、出口のない救援活動になる。当面はハイチの国連敷地内と（隣国）ドミニカ共和国の2拠点で医療活動を行う」と報告した。（5面関連）

菅波代表は現地の医

現地の様子などを報告する
菅波代表（左）と朴医師

療ニーズについて、一般診療▽足を切断した人への義足の提供とリハビリテーション▽復興期の心的外傷後ストレス障害（PTSD）への対応の3点を挙げ「一般診療は2月いっぱいがめど。PTSDのケアは野球などスポーツを取り入れることを検討中。支援は長期的になる」とした。

同行した岡山大病院の朴範子医師は「手足の骨折、外傷患者が多い印象を受けた。小児でも足を切断したケ-

スがあり、術後管理と精神的ケアが課題。医薬品より、食料や水不足が深刻だった」と話した。

2人は20日に岡山を出発。ドミニカ共和国の公立病院を視

察するなどし、27日に帰国した。AMDAは28日までに日本、カナダなどの医師、看護師ら延べ18人を派遣している。

（伊丹友香）